

11月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

30年11月のDI値は8指標中、「売上高」のみ上昇。残り7指標においては下落となった。特に「収益状況」の悪化が顕著である。

2. 県内中小企業の景況の現状

板金工事業では、需要が好調。また畳小売業や貨物運送業においても好天に恵まれたことや生鮮野菜関係の荷動きの増加、燃料価格の値下がりにより、収益状況について前向きな声が寄せられた。

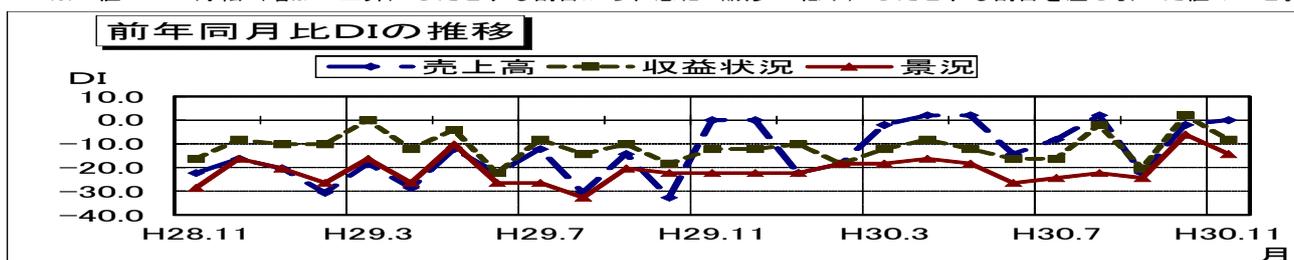
一方、小売・サービス業においては、収益の悪化傾向が窺われる。加えて、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高により、商品への価格転嫁が困難であることを嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比 増減
景況	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	-14.3	-8.2
売上高	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	0.0	2.0
収益状況	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	-8.2	-10.2
販売価格	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	8.2	10.2	6.1	4.1	-2.0
取引条件	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-4.1	-2.1
資金繰り	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	-4.1	-2.1
設備操業度	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	-6.1	-4.1
雇用人員	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	-10.2	-2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は101.0%、出荷量は99.6%となった。前月比では生産量120.1%、出荷量117.1%と増加した。依然として原材料のコスト高が続いており、収益面悪化している。そのため、やむなく一部の商品価格を値上げして対応している。

<繊維・同製品>

2. 縫 製・相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題であるが、最近では、技術者不足も如実に表れてきた。売上、収益については、秋冬については、夏季より改善傾向である。しかしながら、市場の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。

<木材・木製品>

3. 木 材・原木出材量は前年より減少していて、売上げも減少している。原木丸太は少ないせいか、価格は上昇しているが、各製材所、合板、その他原木丸太手当買いは旺盛な動きとなっている。
4. 製 材・全般的に消費税増税に伴う需要も見られず、依然として荷動きが悪い状況が続いている。販売ルートにより景況の差が見られる状況もある。
5. 木 材・今年の11月は、10月から引き続き極めてほんの少しですが、景気が良い方向に動いているようだった。しかしながら年末から年始にかけて継続するか難しい見透しだ。

<印 刷>

6. 印 刷・年末を控えているとはいえ景気上向きの気配はあまり感じられない。12月は「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントがある。それぞれを少しずつ売上に積み重ね年末需要の拡大に繋げていきたい。また、印刷用紙の値上げ報道があった。輸送費や燃料費の高騰を理由にあげているが、なぜ全商品の値上げでなく印刷用紙だけなのか。値上げしやすいところに手をつけている様に感じ、部分的な値上げはお客様の理解も得にくい。紙業界への不信感が募る。更に紙ばなれにも拍車がかかる。
7. 印 刷・例年11月中旬から繁忙期に入るのだが、今年はもう一つ受注が伸びないようだ。資材提供各社も情報収集にまわっている。このような状況の中、製紙メーカー各社から年明け早々の用紙値上げの表明があった。到底受け入れられる状況ではない。印刷用紙の値上げが行われると、益々国内市場が縮小してしまう可能性がある。年内の受注が改善されることを期待している。

<窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・ 11月は昨年同月と比較して若干減少。特需工事の出荷は順調だが、その他の公共工事が減少している。11月以降は7月豪雨災害関連工事順次発注され、工事の進行状況にもよるが年度内の出荷が多少上積みされそうである。ただ上半期の低迷が大きく響いており、年間の出荷量は昨年度を下回ることが予想される。
9. 生 コ ン・ 11月の出荷数量は、対前年同月比15%の増加となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、秋口より官民での新規新設受注工事が順調に稼働したことが影響している。今後の出荷数量については、数量的には前年並みを予想している。販売価格については、価格見直しにより上昇したが、原材料費が上がり売上増となったものの利益増にはつながっていない。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・ 概ね受注も堅調であり、企業によりばらつきはあるものの、売上、設備操業度は増加している。一部では好況も見受けられるところであるが、原材料費の上昇などの不安定要素もあり、依然として景況に大きな変化は見られず、今後の景気動向が注視される場所である。
11. ステンレス・ 国内外ともに目立った大きな変化は無く、引き続き大手を中心に設備投資が行われている。米中の貿易摩擦による世界経済への影響も懸念され、今後の先行きは不透明な状況である。

<一般機器>

12. 機 械 金 属・ 全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られる一方で、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、原材料価格その他の経費の増加、従業員の確保難などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<小 売 業>

13. ショッピングセンター・ 売上高は全店計89.7%(既存店90.5%)、客数は90.1%(90.8%)だった。今月も大変悪かった。8月と9月は95%前後だったが、10月と11月は90%と低迷している。業種別に見ると、衣料品の売上が83.2%と特に悪くなっている。この2カ月のうちに近隣に商業施設が出来た事実もないし、市外の大型施設へ買物客が急に流出しだしたということも考えられない。売上の減少を気温のせいにするのはNGかも知れないが、今年11月の平均気温14.3℃(昨年12.4℃)、最高平均気温は18.3℃(昨年16.3℃)、最低平均気温は10.8℃(昨年8.4℃)と気象庁のHPから引用したデータだが、確かに前年と比べ気温は高くなっている。気温が高ければ、その変化に対応した商売をすればいいのだが、なかなかうまく行かない。いよいよ12月、年末年始には市外の大型施設への大量流出が考えられる。買物客の流出を少しでも食い止める強力な販促計画を立てたいと思う。

14. 電気機器・12月1日からの4K8K放送開始予定で大型TUの販売が増えてきている。各メーカーのチューナー搭載機器が揃えば売上げに期待がもてる。白物家電は大きな変化なし。
15. 畳小売業・11月は好天に恵まれ暖かく、一般家庭の仕事もでてきた。工務店関係は現場の遅れが目立つ。畳の縁下紙のメーカーが年内で廃業するという事で、在庫分をストックする店が増えている。
16. プロパンガス・本格的に需要期に入ってくるので、保安文書周知の徹底とともに、未収金を回収することに努める。
17. 機械器具・原因がつかめない業況悪化の話を耳にする。

<商店街>

18. 徳島市・空店舗が新しく飲食店になるようで、現在、改装工事が始まっている。
19. 徳島市・人の動きは天候に左右される。例年より気温が高く、秋冬物の動きがよく、後半寒さが続くと冬物への動きが例年よりも早く動いたが、個店のメールetc努力による様子。

<サービス業>

20. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務において、道管・交対課における工事業務量は、11月度は落ち着いている。工務課においては、新直轄（徳島～阿南）高速道路工事が多くあり多忙であるが、前年度に比べると業務的には、少なかったようだ。道管においては、来年度補修工事を多く発注する見込みであり、忙しくなりそうだ。工務課は、H30年度予算が多く残っているため、12月から忙しくなりだ。来年度は働き方改革関連法、四国地方整備局の業務のやり方の改革等により、当該業務の担当技術者の業務が増えることになりそうであり、又、勤務体制（時間）管理が難しくなりそうだ。
21. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比11.5%の1,511台、中古車は2.3%の443台、合計では9.3%の1,954台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比15.7%の1,282台、中古車4.1%の356台、合計は13.0%の1,638台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比10.9%の3,592台と増加。軽自動車の新車販売台数が好調で前年より15.7%増。登録自動車（普通車）は対前年比11.5%増。特に登録自動車は例年よりもわずかに大きく伸びており、11月の販売台数は過去5年間で最も多い。年度末に向けてこのまま増加してほしいところ。車検等のサービスによる収益状況は少し不調で、登録車が7.5%減、軽自動車は1.6%減。
22. 旅行業・今年は紅葉がいまいちだったためか、あまり売上げが伸びなかったようだ。全体的に景況は悪化傾向にあるようだ。
23. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・654円→H30年・766円）。H30年10月から新規改定額が適用されることとなり、これに伴うダメージが現れてくると思われる。

<建設業>

24. 建設業・徳島県発注工事は、前年に比較して増加しているが、地域的な偏りがある。7月豪雨による三好地域の災害復旧工事の発注が多くなって来る。
25. 電気工事業・新設住宅口数は276件であり、対前年比102.6%と微増した。
26. 板金工事業・新築工事、リフォーム工事とも順調に続いている。各事業所協力しあっているようだが、手間不足のようだ。

<運輸業>

27. 貨物運送業・一般貨物輸送は、生鮮野菜関係は出荷量の増加、他は例年並みに推移。燃料単価の大幅な値下がり（前月比7円強）により収益が改善されつつある。年末にかけ値下がり傾向で推移してもらいたいものである。
28. 貨物運送業・10月をピークに燃料価格の上昇が続いていたが、11月はやや下がった。しかし未だ高値であることには変わりなく、燃料価格の上昇に運賃アップが追いつかないという声が多い。久しぶりに「売上高」が増加と答えた事業者が増えたが、その内でも「収益状況」や「業界の景況」については悪化と答えた事業者もいる。